

第 3 3 期東京消防庁救急業務懇話会諮問事項

高齢者救急需要への取組はいかにあるべきか。

救急搬送人員は、高齢化の進展等により毎年増加の一途をたどっており、2017年には東京消防庁管内で約70万人が救急搬送され、そのうち半数以上は65歳以上の高齢者であった。過去20年間で搬送人員は約1.5倍に増加しており、全搬送人員に対して高齢者の占める割合も年々増加している。

また、2025年には団塊の世代が75歳以上となることから、今後高齢者の救急需要は引き続き増加する見込みである。

このような需要の増加に加え、高齢者の救急活動を取り巻く課題としては、現場での情報聴取に時間を要すること、心肺蘇生を望まない傷病者への対応に苦慮すること、転倒等の生活事故で負傷する高齢者が多いことなどが挙げられる。

これらのことを踏まえ、高齢者救急需要への取組はいかにあるべきかについて、次の項目を検討内容として諮問するものである。

- 1 心肺蘇生を望まない傷病者への対応
- 2 救急利用者情報登録制度
- 3 高齢者予防救急方策